

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	○	理念に対して完璧に出来るように日々心がけている。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		ご家族や、来訪者に質問されることはありませんが、ホームの玄関表面、各階フロアー、事務所等の目に付きやすいスペースに提示している
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		ホームで開催している七夕祭りに行っている屋外焼肉パーティーに近隣のおじいちゃん、お隣の民生委員さんやそのお孫さんが来てくださる、挨拶するとお疲れさんと声をかけてくださる、三軒隣のおじいちゃんが漬物を持ってきて下さる、近くの幼稚園との交流あり。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		町内会に加入し神社のお祭りに楽しく参加させてもらっている、お正月にはドンド焼に入居者さんと一緒に出かける、アカシア公園での盆踊りにも参加している、又ホーム駐車場で行うホームのレクには近隣の方々が沢山見学に来られる。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	地域の一員として地域の方々に認知症という病気を理解していただけるように努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価などで指摘を受けた項目はスタッフ一同で一つずつクリアしている、自己評価はスタッフ皆さんに書いて頂各フロアにて回収し会議で話し合い整理している。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	包括支援センター、民生委員、お隣のラ・ナシカさんに出席していただきました。サービスに対してのご意見を頂きました、2ヶ月に1回の割合で実施している。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	小樽グループホーム協議会に加入している、介護保険課の担当の方と連絡を取り合い相談している、又包括支援センターの川尻さんにはなんでも相談に乗っていただいている。	○	これからも困難な事例はどんどん相談していきます。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者やケアマネージャは研修会に参加している、当ホームで入居者3名様が成年後見人制度を活用し2名の方に後見人がついた、ご家族よりお金を預かり、理美容や医療費の支払いを行っている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止研修会に参加している、ホームでは研修会で発表されている拘束などはまったく考えられないが、。毎月のミーティングで虐待防止の徹底を行い、スタッフ全員で意識を持って対応している、身体拘束廃止委員会を設置している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は読み上げながら説明している、一つ一つの項目を理解していただき、その場にて疑問点があれば質問していただき返答している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ほとんど入居者様から不満がある時は話を聞いてほしいと訴えがあり、スタッフは一対一で話を聞きご本人の納得できるような対応を取っています、話を聞くことにより安心され、毎日の生活を送っています。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月の請求書の送付時に入居者一人一人の担当者からこの一ヵ月をどの様に過ごされたのか、又主治医からのお話されたこと等を直筆の手紙にて知らせている、ホーム便りを送付しホーム全体の様子や金銭出納長のコピーと一緒に同封しています、職員の移動等も知らせています。	○	ご家族はホームの便りや担当スタッフからの手紙にてどのように生活しているのかが分かり、遠く離れていても親の様子が分かるかと好評を得ている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情や意見は直接言われることがほとんどです、家族会や運営推進会議で話される要望やご意見にはすぐに対応し納得されているかどうかを伺います。要望に関してはほぼ実行しています。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回ふれあい朝里、ふれあい小樽稲穂合同で各フロア管理者、職員にて責任者会議を行っている。運営者に要望を出し検討していただいている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話合いや勤務の調整に努めている。	通院介助や入浴介助等入居者様に合わせて柔軟な勤務体制を取っている、緊急時や突発的な事故時はホーム長、フロア長がすぐに駆けつける体制を取っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットごと職員の固定化に勤めています、職員は長く勤務される方が多く、職員に対してのセルフケアにも努めています。	○	スタッフ同士のコミュニケーションがいつでも取れるように努めて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	無資格で採用した職員には働きながら2級を取得していただく、3年を経過した者は介護福祉士に挑戦している、6名の合格者あり。今年度は4名の方がチャレンジ予定です、管理者に付く方は管理者研修の受講、他の職員はグループホーム介護レベルアップ研修をほとんどの職員が受講している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	小樽グループホーム協議会に加入し研修会に参加している、向かいの介護付き有料老人ホーム「ラ・ナシカ」さんの管理者の方や包括支援センターの職員に運営推進会議に出席していただいて意見を聞いている、ふれあい朝里、ふれあい小樽稲穂とで合同の責任者会議を毎月行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は職員の悩みや相談には時間をかけ話を聞いている、全ユニットを三班に分け温泉旅行に行ってきた、全員が参加する各階ミーティングの後にお茶会や飲み会を開いてストレス軽減に努めている。	○	今後も職員の訴え、悩みに対しては耳を傾けていく。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行っている、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境作りに努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居される際は事前面談を行いご家族・本人から今までの生活状態や今現在どのような面で困っているか等を聞いています、ホームの様子を伝え、入居されてからはどのような生活を送りたいのかご家族、本人より話を伺う。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の苦労話や入居者様が今後どのような生活を送ってほしいのか伺う、大変な苦労をされているご家族は話をされながら涙ぐまれることもありその様なご家族には安心していただけるような支援をしている。	○	ホームで生活され笑顔が見られるようになるとご家族様も安心されお互いに良い介護者となり共有の話が出来るようになっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人にとってどのようなサービスが必要なのかご家族と共に話し合う、早急な対応が必要な相談者には地域包括支援センターや他の事業所への対応につながるような対応をとっている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居を希望された場合、ホーム長やケアマネージャーがご本人と直接話を聞くことに務め1～2回の訪問調査を行っている、又ご家族やご本人にホームを見学していただき、食事やおやつ等を入居者様と一緒に食していただきホームの様子を感じていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	掃除や調理などを一緒に行き互いに協働しながら生活できるような雰囲気を作っている。人生の大先輩であるという考えを職場全員で共有し生活上の知識を教えていただいている、又職員は入居者の輪に入り一人一人のパイプ役に徹し一緒に泣いたり笑ったりしている。	○	これからも人生の大先輩である事を心に置き、お互いに協働し笑い合える関係をつくっていきます。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎日の手紙や電話などでご家族とはいつも連絡を取り様子を伝えたり、家で生活されていた情報を聞いている。ご家族の悩みや要望に耳を傾け解決するように共に話し合っている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族、本人の思いや状況を見極めながら外出や外泊で家族と一緒に過ごされるような会話を心がけている、ホームのレクとして温泉一泊旅行を企画しご家族、ご本人、職員と一緒に温泉に入り一泊してきた。	○	良い関係をいつまでも持続できるよう日々努めて行く。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から利用されていた美容院へ行かれる入居者様や昔から通院されている病院やキリスト信者で毎週礼拝されていた入居者様は引き続き利用されている、今まで生活されていた一人一人の生活習慣を尊重している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者全員が参加できるようなレクを行いそれを通し共通の話題等で盛り上がるよう努めている。皆さんでレクを行う際には一人が出来ずに嫌な思いをしないように配慮し支援している、孤立しがちな方、話が苦手な方にはスタッフが声かけしたり、会話のパイプ役になり関係を保てるように努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院等で退所になられた場合は時々お見舞いに行っている、一緒に入居されていた仲間の方たちと行く場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者さまの思い、願い、好み等時間をかけ把握に努めている、把握が困難な入居者さまの場合は日常的な言動やスキンシップを通して本人の立場になって把握に努めている、フロアごとのミーティングの中で検討し共有を図っている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人一人の入居者様についてその人独自の生活歴やライフスタイルや価値観の把握に努めている、ご家族の知らない本人の子供の頃の様子や性格に関しては本人の兄妹やいとこさん等から来訪時にお話を聞いている。	○	入居者様一人ひとりに合った生活環境を整えるため日々の目配りや状況の変化の伝達をしっかりと出来るように努めていく。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様一人一人の生活リズムを理解し、行動や小さな動作から本人の全体像の把握に努めている。毎日の生活の過程でできないことより今できていることに注目し、精神面での安定につながるようその方全体の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者様の心身の課題や本人、家族の意向に沿って介護計画を作成している、3か月ごとにモニタリングを行っている。課題分析を通して担当者やケアマネージャーにより介護計画を作成し職員全員でカンファレンスを行い共有を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間設定は長期6ヵ月、短期3ヵ月と設定し3ヵ月ごとにモニタリングを実施している、毎月一回入居者様個々のカンファレンスを実施しプランの出来る部分できない部分を意見交換し都度プランに取り入れている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のファイルを用意し、食事、水分量、排泄状況等の身体的状況および日々の生活の様子や本人の言葉、エピソード等を記録している、いつでも全ての職員が確認できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	理美容院、教会、通院などは家族と職員とで都合を話し合いながら実施している、主にホーム側での自主サービスとして行っている、提携病院とは24時間365日の医療体制を確保しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう警察、消防、民生委員と相談したり意見を聞いたりする機会を作っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者様の状況や希望に応じて色々なボランティアの支援を行っています、又本人の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを行っている、又他のサービスとは別ではあるが幼稚園の来訪があり入居者様の楽しみの一つとなっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括支援センターの創設以来、色々な事で相談に乗っていただいている。運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき、毎回意見やアドバイスを頂いている。	○	終末期ケアに対しての相談などを行いアドバイスをいただき、ターミナルケアに向けスタッフ一同日々質の向上を図っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関による月2回の往診があり、急変時や夜間時の対応や入居者様の健康相談が出来るようになっている、又利用前からのかかりつけ医の受診も職員同行の受診により安心して通院が出来るように支援している。複数の医療機関関係を密に結んでいる。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医のもとで入院、治療を受けられた方や通院しながら治療を受けられている方等何らかの形での認知症の方がほとんどで専門医、看護師さんにこの方にとってどのようなケアを行っていけばよいか相談できる体制になっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を確保していないが、職員と提携医療機関の看護師さんとの連携が密に取れる体制が確保されており、健康管理からちょっとした体調の悪さ等も相談できる体制になっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関の連携は十分に保たれている、入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関へ提供し、頻繁に職員が病院へ様子を伺いに出向き、ご家族とも情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居者様の重度化に伴い家族よりホームでと希望された場合は家族との間で意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行い、家族より同意の署名、捺印を受けている、スタッフ間の信頼感、安心感が深まるようミーティングの回数を増やし情報の共有を図っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い入居者様が安心して終末期を過ごしていけるように取り組んでいる、急変した場合はすぐ対応していただけるよう医療機関とも密に連携を取り合い対応している。ターミナルケアに関してマニュアルを作り、毎月のミーティングで職員全員がターミナルケアを受け入れて対応できるような体制づくりをしている。	○	包括支援センターに相談に乗っていただき、アドバイスをもらっている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>勉強会やミーティングを通し職員の意識向上を図ると共に日々の関わりの中で入居者一人一人の誇りやプライバシーを尊重し、言葉使い等に充実に配慮している、全職員に対し機密情報守秘契約書に署名していただき、個人情報に関する法令厳守に務めている。</p>	○	<p>職員中心の介護にならないように日々意識し心がけている。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>朝の着替えは今日どの洋服を着たいか本人の意思で決めており職員は見守りや支援が必要な時のみにお手伝いしている。個々の生活習慣に合わせた化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう努めている、昔ながらの馴染みの美容院へ同行介助し希望に合わせたカットや毛染めをしていただいている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>その日のメニューは入居者の希望を取り入れスタッフと一緒に考えている、準備や後片付けは入居者様の能力や体調に応じて一緒に行っている、入居者と職員全員で一つのテーブルで同じ物を一緒に会話を楽しみながら食べています。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員は一人一人の好みを把握しており、出来る限り希望に沿えるよう食事を提供している。嚥下、咀嚼に問題のある方はその方にあった食形態で対応し、少しでもおいしく摂取されるよう対応している、毎晩晩酌される方もいます。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>時間や習慣を把握し、トイレ誘導を行っている、訴えが出来ない方のサインを見逃さずトイレへ誘導することでトイレ内での排泄が出来ている。重度化にともない失禁される回数が増えパット対応が余儀なくされた方に対してはプライドが傷つかないよう時間をかけ支援している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の大半は入浴を楽しみにしており職員と一対一で無理のない入浴を行っている、一時間くらいの時間をかけ入浴される方もおり入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒否する方に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレイなどによって個々に合わせた入浴支援を行っている。</p>	○	<p>「私は一回も入った事がない」との訴えが聞かれる方には個々に入浴カレンダーを作成し入浴した事を確認できるようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めています、又一人ひとりの体調や表情、希望を取り入れてゆっくりと休息がとれるよう支援している。眠れない入居者様に対しては会話をもち一緒に過ごすことで精神面での安定が保てるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	毎日の暮らしを共にする中で張りを持って生活ができるよう一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけ、お願いできそうなお手伝いは声かけにて行っていただき感謝の気持ちを伝えている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	自己管理が少しでも可能な入居者様は家族の協力のもとに5000円を持っていただきお孫さんの来訪時に使われている。自己管理が不可能な入居者様には家族来訪時に管理状況を確認していただいている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	天候や入居者の体調、気分などを配慮し散歩、買い物、ドライブ、菜園活動など屋外へ出る機会を多くし、季節感を感じ心身の活力を引き出し気分転換が出来るように支援している。	○	外出希望の強い方にはスタッフ同士話し合い、時間を見計らって外出できるように支援する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の暮らしを共にする中で張りを持って生活ができるよう一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけ、お願いできそうなお手伝いは声かけにて行っていただき感謝の気持ちを伝えている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が少しでも可能な入居者様は家族の協力のもとに5000円を持っていただきお孫さんの来訪時に使われている。自己管理が不可能な入居者様には家族来訪時に管理状況を確認していただいている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や入居者の体調、気分などを配慮し散歩、買い物、ドライブ、菜園活動など屋外へ出る機会を多くし、季節感を感じ心身の活力を引き出し気分転換が出来るように支援している。	○	外出希望の強い方にはスタッフ同士話し合い、時間を見計らって外出できるように支援する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	温泉一泊旅行やお花見を計画、実行している、家族の方にも一緒に参加していただき入居者同士のふれあいや家族とのふれあいを大事にし、入居者、家族、職員と一緒に行動できるよう支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話をかけたい方は居室にて人目を気にせず電話が出来るように支援している、手紙を書かれた方は切手を張りポストに入れるお手伝いをしている、又家族と疎遠の方はスタッフが中に入り電話をかけお話ししていただけるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご夫婦で入居されているご家族は「父さん、母さんの家だから」とほぼ毎日の様に来訪されている、面会時間は設けておらずいつでも来訪できる体制となっている、家族が遠くに住まわれている方にはホームに泊まっていただく支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について毎月のミーティングで常に話し合っている、全職員は身体拘束に関する知識を十分に把握しており自覚ない身体拘束が行われているかいないか、申し送りやミーティング等で確認している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間帯の玄関施錠以外は玄関、居室共に鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。入居者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなくさりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮して対応している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中時は職員が見守りやすい位置にいて記録をとったり、調理をし入居者の様子を常に把握しながら動いている、夜間は個々の身体面や精神面を考慮し巡回回数を増やすなどして安全面に注意をはらって対応している、夜眠れない方にはその人の安らげる空間にて会話を持って対応している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員が把握し、管理の方法の取り決めをし職員の共有認識を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測される危険をミーティング等にて検討し事故を未然に防ぐための工夫をしている、小さなことでもハッと思ったことはヒヤリハットに記入し全職員にて事故につながらないように話し合っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急処置、初期対応の訓練は行っているが定期的に実施していく必要がある、緊急時対応マニュアルを作成し入居者個々のファイルに入れ、職員はいつでも見ることが出来る。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	何よりも火災を起こさない対策を最優先に考え全職員とミーティングを行っている、年一回は消防署の協力を得て消防車が出動し避難訓練を行っている、朝里地区連合町会の防災訓練に参加した。	○	冬に火災が発生したことを設定してお隣のラ・ナシカさんに避難する訓練を予定している。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており、家族に対し状況を具体的に説明している、ヒヤリハットの記入が何度もある方には特に拘束せず人間らしく生活できる現在の状況を来訪のたびに話をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる、毎日バイタルチェックを朝・夕行っており、変化等に気づいた事があれば直ぐにケアマネージャーに報告すると共に職員間で共有し、対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の薬に関するファイルを作成している、薬が何の目的で報用され、どのような効果があるのかをよく勉強し職員間で共有している、よく把握できない場合は主治医に詳しく説明を受けている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事の内容に繊維質の多い食材を取り入れ工夫している、水分の摂取量をチェックし確実な排便状況を把握している、便秘が続く方には医師の処方を取り入れ指示のもとで服用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口の中の手入れの必要性を職員全員が理解している、食後は声かけにて自力で出来る方は自力で、困難な方は介助にて口腔ケアを行っている、又自力口腔ケアが困難な方は食後のマウスケアを行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者の希望を取り入れ栄養のバランスを考えた食事を提供している、食事や水分の摂取状況を毎日チェックし表に記録し全職員で共有している、定期的に栄養士の資格を持つスタッフがカロリー計算を行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、マニュアルを作成し全職員で学習して予防、対策に努めている、入居者および家族に同意をいただき職員全員と共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策としてペーパータオルの使用、インフルエンザ対策として手洗い、うがいを徹底し予防に努めている。	○	嘔吐、尿、便汚染があった際には都度早急に消毒洗浄を行っている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	事業所では台所、調理用具等の清潔や衛生管理方法について取り決めがあり、毎日夕食が終わってからまな板、布巾、包丁等を漂白剤で殺菌、消毒している。食材としても生ものはその日に買い入れその日に使うようにしている、冷蔵庫、冷凍庫の食材点検や掃除を頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気の玄関になるように、花を生けたり、鉢を置いたり、玄関先にプランターを置いたり季節を感じられるようになっている、入口には手作りの案内板を提示し近所の人が立ち寄り安い雰囲気を作っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング兼ダイニングを含む共有空間があり季節を感じる装飾品や台所から漂う調理の音、香りなど季節感や生活感を感じられるようになっている、共同空間の居室入口には飾り棚があり個々の思い出の物や、自己作品を飾っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	エレベーター前の踊り場やベランダ出入り口前の空間に椅子やソファを置き皆さんの気配を感じながら一人で過ごしたり、仲の良い友人と過ごせる居場所を作っている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の居室には入居者が使い慣れた家具や仏壇を置き自身の生活用品、趣味の品々や写真を飾り、入居者個々が好みに応じた環境となっており、安心して過ごせる居心地の良い居室になっている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	フロアー、居室に温室計を設置し一定の温度や湿度が保てるようホールに温室記録表があり、職員は常に気を配っている、フロアー内には気になる匂いはなく、いつもおいしい匂いが漂っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の状態に合わせて浴室、トイレ、廊下の手すりなどの居住環境が適しているかを見直し、手すりを新たに設けたりと安全確保と自立を促す支援をしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	簡単な作業やレクを通じて一人ひとりが「何が出来て、何が出来ないのか」を把握し職員が関わりを持って今出来る事が続けられ、残りの人生を楽しんで生活できるように日々努めている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植えている、入居者が毎日水をやってくださる、裏に畑を作り、畑が見渡せるスペースを確保してベンチを置き、草むしりや日向ぼっこが楽しめる工夫をしている。	○	中々本人から訴えられない方には、こちらからお誘いするように日々心がけている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者の意思を尊重した、笑顔の絶えないフロアーにしていく。  
地域の一員として地域に役立つホーム作り。